

新しい介護予防・日常生活支援総合事業に伴う  
ケアプラン説明会

# 「現在のケアプラン(例)」と 「これからのケアプラン(案)」 の見比べ

志摩市健康福祉部  
介護・総合相談支援課

## 利用者情報

利用者名	志摩 花子 様	認定度	要支援2(継続)	年齢	81歳
世帯状況	単身	家族等の支援	かなりある		
認定期間	平成28年10月1日～平成29年9月30日				

## ADLの状況

移動(歩行)	支障はないが困難	食 事	支障なし
排 泄	支障なし	入 浴	支障なし

## 既往症

高血圧症
両側変形性膝関節症
第5腰椎すべり症

## 現在の状況

- 自宅内はゆっくり周囲に掴まりながら歩行、自宅近辺は杖や押し車を使用。ひざに負担がかかる長距離の移動は困難。
- 平成28年に夫が亡くなり独居になる。買い物は毎週末長男が病院受診等も長男、長女、友人が支援してくれる。
- 膝の痛みもあり、自分から友人宅等へ訪ねることは無くなったが友人の来訪や昔の仕事仲間との交流は今もある。週2日程度畑に行って1時間ほど椅子に座り草抜きをする。
- 家事は概ね自立、掃除機がけは長男にもしてもらうが、自分でも月1回はするようにしている。モップは毎週1回はかけている。
- 自宅での入浴は浴槽が深く入るのが困難なためシャワー浴を行っている。
- 12月に名古屋で孫の結婚式があるのでしっかり歩けるようにしたいと思っている。 2

## 課題

○両側変形性膝関節症、第5腰椎すべり症の為、歩行動作に支障あり、痛みが持続しているため、長距離の移動は困難で友人宅等を訪問することが無くなった。  
○自宅浴室の浴槽内に掴まるところが無く不安で入浴できず、自宅ではシャワー浴

## 利用者の希望サービス

利用希望サービス①: デイサービス	利用目的: 交流・閉じこもり予防
-------------------	------------------

## 現行から総合事業移行に伴う利用サービスの変化

	現行	総合事業移行後
利用サービス①	介護予防通所介護	通所型サービスA(基準緩和型サービス)
サービス選定理由		○利用者の利用目的が「交流・閉じこもり予防」 ○ADLの状況から見守り程度の援助相当と判断

## 備考

○追加支援: 浴室内の手すり取り付けの検討・提案  
○総合事業に移行した場合の支援計画案(サービスの選定)にあたって  
この支援計画書の利用者が総合事業に移行した場合の利用サービスの種別を検討するにあたりADLの状況や課題、利用者の利用目的を加味し、「基準緩和型サービス」と判定しました。  
・日常生活: 自立    ・歩行: 支障はないが困難    ・身体状態: 腰痛等あるが安定

## 利用者情報

利用者名	里海 志摩子 様	認定度	要支援2(継続)	年齢	81歳
世帯状況	単身	家族等の支援	かなりある		
認定期間	平成28年6月1日～平成29年5月31日				

## ADLの状況

移動(歩行)	支障あり	食 事	支障なし
排 泄	支障なし	入 浴	支障なし

## 既往症

左腸骨病的骨折
悪性リンパ腫
便秘症

## 現在の状況

○平成24年に夫が他界し独居となる。同年、転移性脊椎腫瘍(悪性リンパ腫)による病的骨折(左腸骨骨折)により、6ヶ月間入院し抗がん剤治療施行。一時は歩行もできない状態であったが、リハビリにより、歩行ができるまでに回復。後遺症による腰痛あり、長時間の立位、歩行が困難。悪性リンパ腫については定期通院にて経過観察中。

○円背あり、左下がりの湾曲あり、腰が伸びず、床からの立ち上がりが困難で椅子生活となっている。

○長女が町内在住で週に何回か訪問あり、買い物や通院送迎等の支援あり。

○独居で腰痛や長距離歩行が困難なため外出の機会が減り他地区出身であることから地域との交流が少ない。

## 課題

○悪性リンパ腫の後遺症による強い腰痛により長時間の立位・歩行が困難

○円背もあり左下がりの湾曲となっていて腰が伸びない状態の為、床から立ち上がり困難で椅子での生活である。

○平成24年に夫が他界し独居。腰の痛みがあり外出が減る。他地区出身の為、近所に友人が少なく交流の機会が少ない。

○悪性リンパ腫の経過観察の為、定期的な治療の継続が必要。病状は安定しているが転倒リスクも大きく無理な動作は出来ない。

## 利用者の希望サービス

利用希望サービス①: デイサービス	利用目的: 交流・閉じこもり予防
利用希望サービス②: ホームヘルプサービス	利用目的: 家事支援

## 現行から総合事業移行に伴う利用サービスの変化

	現行	総合事業移行後
利用サービス①	介護予防通所介護	現行の介護予防通所介護相当のサービス
サービス選定理由		○転倒リスクが大きい ○悪性リンパ腫の経過観察(治療)中の為、病気観察が必要
利用サービス②	介護予防訪問介護	現行の介護予防訪問介護相当のサービス
サービス選定理由		○転倒リスクが大きい ○悪性リンパ腫の経過観察(治療)中の為、病気観察が必要 ○専門職による体に負担をかけない家事姿勢の助言等の実施

### 備考

○総合事業に移行した場合の支援計画案(サービスの選定)にあたってこの支援計画書の利用者が総合事業に移行した場合の利用サービスの種別を検討するにあたりADLの状況や課題、利用者の利用目的を加味し、「現行相当サービス」と判定しました。

- ・日常生活:掃除・調理等支障あり    ・歩行:支障あり
- ・身体状態:悪性リンパ腫経過観察中(定期的な通院)、転倒リスク高い

サービスの種別については利用者の状態の変化等を常に把握し、利用者にあったサービス種別となるよう注意して下さい。  
 例えば、前回「現行相当サービス」だったから更新時も「現行相当サービス」を継続！  
 ではなくその都度、利用者の状態や目標を把握し、適切なケアプランを作成して下さい。

<p>現行の介護予防通所介護相当のサービスの対象となるケース（案）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①指定難病疾患や退院直後で状態が変化しやすい者など、医療的なケアや病気症状の観察が必要な者</li> <li>②身体障害者手帳2級以上や精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者</li> <li>③入浴・食事・排せつなどの身体介護が必要な者</li> <li>④認知症の症状があり専門知識に基づくかわりが必要な者</li> <li>⑤集中的に生活機能の向上のトレーニングを行うことで改善が見込める者</li> <li>⑥上記以外で医師の意見書等により特に必要性を指摘されたうえで、ケース会議等により検討した結果、当該サービスが必要とされた場合</li> </ul>
<p>現行の介護予防訪問介護相当のサービスの対象となるケース（案）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①退院直後で状態が変化しやすく、専門的サービスが特に必要な者</li> <li>②身体障害者手帳2級以上や精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者</li> <li>③指定難病疾患者</li> <li>④生活環境の急激な変化（同居家族の死亡や転出・入院）による一時的な利用</li> <li>⑤認知機能の低下により日常生活に支障がある症状、行動を伴うもの</li> <li>⑥専門職との関わりにより日常生活機能等の向上が見込める者（自立生活支援のための見守りの援助）</li> <li>⑦上記以外で医師の意見書等により特に必要性を指摘されたうえで、ケース会議等により検討した結果、当該サービスが必要とされた場合</li> </ul>